

¡Hola, amigos!

第051号 (再刊第1号)

(RとNの Cádiz からの手紙)

皆さんこんにちは。これはHPというより、日本の友人・知人の皆さんに私達の近況をお知らせする手紙のようなものです。そのつもりでお読みください。

更新は、なるべく毎週、日本時間の金曜朝05:00から07:00時に実施する予定です。臨時休刊の場合は前もってお知らせするつもりです。

なお、バック・ナンバーは最近三号分のみとし、それ以前のは順次削除します。

では、今週号へどうぞ。

2004年11月11日 カアデイスにてR y N

☆今週号のトップヘジャンプ



今週号 No. 051 (2004年・46週) 11月11日 更新

「再刊ご挨拶」の巻

長らくお待たせしました。カァディスへの引っ越しもどうやら無事終了、身の回りの整理もついたので、ホーム・ページの再開です。どうぞまたお付き合いください。

本当は11月第一週から始めたかったのですが、スペイン版電電公社テレフォニカの怠慢で電話開設に信じられぬほど手間がかかりズルズルと遅れてしまいました。

表紙でもお断りしているように、このHPは、日本の知人・友人の皆さんに私達の近況をお知らせする手紙のようなものです。日頃の無音をこれで埋め合わせしようというわけで、あくまで私信です。URLの公開はしていませんが、私達がお知らせした

方から環が広がって行く事は一向にかまいません。

そもそも手紙ですから、どうしてもビジュアルなものにはなり難く、ややクドク且つ長ったらしくなりがちです。忙しくしている現役の方々には「読んでランナイ」と言われそうですが、私達同様、時間はタップリあるという方には、日常とは少し毛色の違った小世界を楽しんでいただけるかと思い、どうしてもそういう年代の方に向けた

内容になってしまいます。なかなか万人向けというわけにはいきません。

もう、個人旅行など・・・とされている方に、私達の間を通して節穴から覗くようにでも、スペインの路傍の風物に触れて楽しんでいただけたら望外の幸せです。

個人での旅にはハプニングがツキモノです。予定外の出来事や思いがけない困難を自力で解決してゆくことこそ「旅」を楽しむという事でしょう。

そこで、思いがけない人と思いがけない係りが生ずるかも知れませんが、活字では窺い得ない世界にジカに触れることになるかも知れません。私達の日常生活そのもの、例えば毎日の買い物などでさえも、そういう小さな「旅」の連続だと思っています。

では、また私達の「旅」の道連れになってください。***

(ページの構成について)

以前のような項目別のまとめ方はやめて、今週号・先週号というようなククリにしました。ですから、毎週見てくださる方は表紙から「今週号へ・・・」を一回クリックして下されば終了です。各週ごとに適宜幾つかの話題でまとめたいと思います。月一などの方は今週号のトップにあるメニューボタンで順次各週号をダウンロードしてください。勿論、今はまだバック・ナンバーはありません。

次に、このホーム・ページを[プリントして下さる方](#)へのご案内です。

以前、A4判に印刷する場合の余白の設定についてお知らせしましたが、結局アレはあまり役に立たなかったのではないかと思います。

いま使っているHP作成ソフトでは、作成時の印刷プレビューとブラウザでの印刷プレビューが一致しないのです。特に写真を挟むとどういう頁に出来上がるかはアップロードしてみないと解りません。なにセロハのソフトですから仕方ありません。

もう一つの不都合は、私達が使っているスペインのA4判がごくわずかですが日本の規格と違うのです。だから、私達が印刷してみて、ヨシ、上手くいったと思っても日本のA4にプリントすると少しずつズレが出て、何ページ目かには写真が別の頁に飛んでしまうことがあったのではないかと思います。

書くほうは書くほうで、写真と文章を程良く各頁に収めるべく、文字数と行数を苦労して調整した事が殆ど無駄な努力であったようです。

プリントして下さる方のA4が、私達のと全く同じサイズではないという単純な事実を見落としていました。現役の頃、行った先々でサイズがいろいろ違うA4を使ったことをコロッと忘れていました。とんだドジでした。日本のA4は210 x 297ミリですね。スペインのは幅が1ミリ広く、長さが0.5ミリ短いです。

南米のスペイン語圏のものは、数字ははっきり憶えていませんが幅がやや狭く、長さは5ミリぐらい長かったと思います。米国のは逆に幅がやや広く、長さが少し短かつ

たようです。英国のは幅が少し狭く長さはスペインと同じみたいです。
コピー用紙に限らず、規格の違いには不自由することが実に多いです。これも大げさに言えば文化の違いという事になりますね。
というわけで、印刷すると、こちらで意図した頁にキッチリ収まらない場合があり、写真とその説明が別のページになってしまう場合もあると思います。また、大きく余白ができて用紙を無駄に使うこともあると思いますが、ご勘弁下さい。***

「カァデイスの我が家」の巻

水平線が広く見えるところへ住みたい、と長年思ってきました。40年もの間、船上では常に、否応なしに、そうしてきたのに、それでもまだ、とは我ながら酔狂な話だ
と思います。

前にお話したように、ベナルマデナの部屋からも海は見えるには見えませんでした。角度で
言えば3度ぐらいでしょうか、ほかのビルの間の切り取られた水平線でした。
洋上では360度ドッチを向いても水平線のみ。文字通り空と海の間でしたのですが
現実の生活ではそんな所へ住めるわけではありません。180度とは言いませんが、せ
めて90度ぐらいに広がった水平線を見て暮らしたい、そう思っていました。
カァデイスの部屋探しは5月初めから始めていましたから、もうそろそろ5ヶ月にな
ろうかという9月末、殆ど期待感ナシに、半ばアキラメかけていることを自覚しなが
ら、性懲りもなくまた出かけました。

これまで接触していた10軒ほどの不動産屋のうち、何らかの物件提示があったのは
2軒3物件だけで、もうチョッと新しい所を開発する必要も感じていました。
不動産広告雑誌で一応下調べはして、新たに訪問する店の目星はつけてありました。
しかし、最初に飛び込んだのは通りがかりに見た広告ビラのなかに惹かれるものがあ
った店でした。

店に入ってよく聞くと、そのビラの物件は「夏場の三ヶ月以外」限定というもので、リゾート客の来ない時は安く貸すけれど、夏の三ヶ月はホテル並み料金の短期貸して一気に一年分稼いでしまおう、という魂胆のようでした。私達が見た広告の内容はこの期間以外の安いほうの料金でしたが、いくら安くても、夏は出てゆけというんでは話になりません。

やっぱりそんなことかとガッカリしていると、係りのセニョリータは、どんな条件のトコを探しているの？ と聞いてくれました。そこで用意していた例の「手製借り広告ビラ」を取り出して説明しました。最新版はカァディスの地図付です。

なぜかその日は店も暇で、私達のたどたどしい話を辛抱強く聞いてくれたのです。

手製借り広告なんて見たこともなかったんで物珍しさも手伝ったんでしょうね。そして、チョット待って似たようなのがあった筈、とファイルを探してくれました。でてきたのは書類の上では私達の注文にピッタリの物件でした。けれども、この業界の話はマズ眉に唾をつけて、ですからヌカ喜びは禁物です。

色々聞いてみるとこの物件は同じ会社の別の支店で受けたもので、彼女も書類に書いてある簡単なこと以外は知らない様子です。見てみますか？ とすぐにでも、立ち上がりそうでしたが、イヤイヤ、まず私達だけで建物を見て、場所が気に入ったら帰って来るからと、場所と建物の名前だけ聞いて店を出ました。

地図を頼りに探しに行くと、意外に簡単に見つかりました。それは正に私達が望んでいたとおりの立地条件でした。しかし予想外の部屋代の安さを考えると到底建物の前面、即ち大西洋に直接面した部屋だとは思えません。

例のセニョリータ(モニカ Monica)もその辺はシカと解っていなかったらしいのが不安材料です。海に向って最前列の建物の10階というのが彼女の知る全てです。どうせ、建物自体は海に面してるけど問題の部屋は裏側なんだろう、この前と同じ事じゃないか？ 7~8割方はそう思っていました。ヨクアル話ですからね。



上の地図で白い星印が不動産代理店の位置、旧市街の人通りの多い場所のひとつカテドラル(大聖堂)のすぐ近くにあります。そして物件の場所は右の白い長方形の中、カマキリ型の半島の腰の部分です。右下隅の北を示す矢印がわかりますね。この海岸は南西に面しているのです。

代理店から物件までは海岸沿いに走る⑦番の市バスで10分ほど、終点の四つ星ホテル前からは徒歩2～3分です。

上の白枠とは角度が少しずれてますが枠内の拡大図をご覧ください。



Atlántico 2 (大西洋2)というのが建物の名前、しかも住所は Paseo Marítimo (海

岸遊歩道)というのが泣かせます。新市街のメイン・ストリートは海岸通りからワン
・ブロック内側にあり、ソコには商店も多く便利です。

赤い星は海岸通を走る⑦番の市バス終点、すぐ近くの緑の星は別系統新市街メイン・
ストリートを走る①番のバスの停留所。どのバスも、経路は違いますが旧市街行きで
す。黄色のバナナが一番近いスーパー、以上三つは全て3百メートル位に納まってい
ます。スーパーはこの他徒歩十分以内に7軒あって日常の買い物はマズ問題なし。

黄色の星は国鉄駅で、7百メートルほど、サッカー場のすぐ裏側です。駅名もズバリ
Estadio(競技場)。この駅はカァディス/ヘレス間の近郊電車の駅で、セビージャに行
く中距離電車には東隣のサン・フェルナンドで乗り換えます。

始発駅カァディスからは近郊電車で三つ目6~7分。ヘレスまで45分、セビージャ
へは乗り換えの待ち時間は別にして2時間弱というところでしょう。味のあるカァデ
ィス旧市街や港からは少し遠いのが難点といえば難点。

とにかく、こうなったら見るだけは見てみようと、急いでまた店に戻り、明日の約束
をしてからもう一度現場に戻ってみました。丁度夕日の沈む時間で、話どおり大西洋
の落日が目の前バッチリです。建物の前で見ていると、遮るものもない水平線に大き
な夕日が音もなく沈んで行きます。ウーンいいなあー、でもやっぱりこの値段でこん
などこあるワキヤないわナ、と改めて疑いがアタマをもたげます。

家賃は月511ユーロそれにエレベーター使用料・水道料込みの共益費が60ユーロ
です。電気は自己負担ですが、月額100は出ないというし、モシこの家賃で海に面
した10階の部屋が本当にあるなら、それは何かワケありなんじゃなかろうか。
幽霊が出るとか、壁のペンキをはがしたら血糊ベッタリとかね。マア、こうなりやな
んでも出て来い、イギリスなんかじゃ幽霊つきの家は高いんだというし・・・。

翌日、約束の時間は13時30分。勿論私達は日本人の常、船乗りのタシナミである
5分前どころか30分も前から門の前、遊歩道のベンチで頑張っていました。

どうせ現れるのは2時頃だろうなと思っていると、意外や意外、殆ど時間きっかりに
若い男性が近づいて来ました。そして、彼女は少し遅れるけどもうバスでコッチへ向
っているから、と言うのです。約束の時間どおりに誰かが現れるなんて全く予想もし

ていなかったのも、これにはビックリ。多分彼がその物件を受けた支店の人間なんだろうね。

それから10分も経たないうちにモニカも現れて、いよいよ部屋に上がって行きました。この時点になってもまだ誰も部屋が何処にあるのか、海が見えるのか見えないのか知らないのです。部屋のナンバーを頼りに探し当てたのは、ナントなんとズバリ海側のしかも私達が散々下から見上げて、あの辺ならイイナと言っていた所でした。

扉を開けた瞬間、もう大概の難点は目をつぶろう、と思ってしまいました。居間と寝室の一つからは大西洋丸見え、台所からさえ居間をとおして窓いっぱい水平線が見えます。しかも部屋の設備・内装・家具・什器に至るまでベナルマデナのより大分いいのです。

ベランダも広々、落日を見ながらのビーノも思いのまま。5ヶ月近く辛抱した甲斐がありました。水平線が見える、落日が見える、という事に特別の意味を感じないヒトでも十分満足できる生活の便利さも併せ持っています。

惜しむらくは、カアディス港に出入りする船はやや遠くなりますが、例えばQM2などが入港すれば、肉眼でもはっきりソレと識別できる距離ではあります。入港針路までは約3マイル(5~6キロ)でしょう。口径8センチ・25倍の双眼望遠鏡が是非ほしいところ。

マズは、部屋の内外をご覧下さい。いずれ私達を訪ねて下さる予定のある方は勿論、そうでない方も、大航海時代、新大陸を夢見て船出していった航海者たちが見たのと同じ海を、同じ方角からトクとご覧下さい。



台所のカウンター越しに居間をとおしてみた海。これを見て、もう殆どキマリ！！



一歩前へ、居間から見るとこうなります。流れる雲は時々刻々形を変え見飽きない。



更に前、ベランダから。空と海のあいだ。今は一点の雲もなし。空の青、海の青。



ベランダから下を覗く。呂の字のタイル張りが門からエントランスへの通路。一方通

行路の向こうは海岸遊歩道、その先はすぐ砂浜。生垣で仕切った庭はバホ (bajo・地上階の各部屋の専用庭。芝生ありモザイク・タイルあり、部屋主のお好み次第。



砂浜 (Playa de la Victoria・ビクトリア海岸) は白く、清潔、かつ広い。ビーチ・ウォーキングをする二人。見えますか？

下辺のモシャモシャはひとつ前の写真の遊歩道の椰子の葉の先端。

サテ、次はいよいよこの部屋最大の呼び物。

今や私達の唯一無二の財産。大西洋の落日、ソル・ポニエンテ (sol poniente)。まさにこの時、即ち太陽の下辺が視水平線上、視半径分上方にある、この状態を航海用語で真日没と言います。昔はこのときの方位からコンパス(羅針盤)の誤差を測定したのです。日の出直後も同じことですがこの瞬間太陽の下辺と水平線の両方がくっきり見えることは意外に少ないんです。上空は快晴でも日没前後の水平線付近にだけ雲が湧くことが多いんですネ。Rは12年間朝晩のこの時間帯の当直をやりました。



光学10倍ズームが欲しいナー。



音もなく(当たり前ですけどネ)沈む太陽。格安ビーノが極上物に化けるひととき。



残照。The Remains of the Day。アスタ・マニャーナ (¡Hasta mañana!)。***

「引っ越し旅行」の巻

引っ越しと言っても、家具というものを殆ど持たない私達ですから、ホントは4ナンバー程度のワン・ボックス・ヴァンのレンタ・カーを1日借りれば済む事なのですが二人共国際免許の期限はもうとっくにきれてしまっているし、この国での運転は正直言ってコワイので、現地免許への書き換えもしてありません。

交通網の整備されていない所では、自分で運転するのが一番便利な事は当たり前で、この国へ来る前は一応そのことも考えてはいました。けれども、来てみて、結局、コリャとてもダメだ、というところへ落ち着きました。

この国の運転マナーを見ていると、こちらがいくら安全運転を心がけても無駄のような気がします。信号は無視する、ウィンカーは出さない。車だけじゃありません、歩行者だって赤信号なのに多くの車の流れの中を平気で横切って行きます。交通規則の根源たる「信頼の原則」もクソも(失礼)あったもんじゃありません。

デ、自前運転はアッサリ却下。原則として一時間以内、条件のいい所なら2時間でもアルキ。それ以外は公共交通機関のみという事にしました。

不便です。時にはイライラする事もあります。けれども、私達は急いで何かをしなけりゃ、早くどこかへ行かなきゃ、という事は殆どないわけで、確実に期す必要があれば早目にでかけて、辛抱強く（ここが難しいトコですが）ジッと待つことで、大概、用は足りています。公共交通機関の運行時間以外の移動はハナッから考えないことにしました。これだと行動半径はごく限られたものになってしまいますけどね。

引っ越し業者の選択・予約はちょっとした苦勞でした。ベナルマデナ周辺の引っ越し業者は圧倒的にイギリス人経営の会社が多く、イギリス・スペイン間を大型トレーラーで毎週定期運行しているような会社は何社もあります。当然、利用者はイギリス人です。その他にも、やはりイギリス人向けの便利屋的な、小さい引っ越し専門というようなところもあります。

日本なら電話一本で簡単に済ませられるのに、その電話での商談が至難の業。面と向っての話ならスペイン語でも何とか辞書を引き引き、手も足も使って分かって貰えるでしょうが、相手の表情も見えない、筆談も出来ない電話ではどうも思うに任せません。

実はそういう困難を避けるため、初めはイギリス人の便利屋に頼もうと思って電話しました。ところがこれが、コイツほんとにイギリス人かいナと思える、とんでもなく分かり難い英語でした。

カアデイスに引っ越したいんだけど、と言うと、カアデイスそりゃ何処だ？
えっ、カアデイス解らない？ヘレスの少し南だよ。ヘレス??そりゃ何処だ???

ダメだコリャ。

イギリス人にはヘレス (Jerez) はジェレスなんだよね、そして彼らのカアデイスはデイスの部分にアクセントを持って行ってカデイスなので、こっちが正しくカアの部分にアクセントをおくともう何を言っているのかワカランのです。これぞ英語国民の傲慢。

ここで **Cádiz** の発音について触れておきましょう。これから長く住もうという町ですから、簡単な綴りでも正しく発音したい。イギリス人じゃありませんからね。そこで、不動産屋のモニカに何度も繰り返し発音してもらいました。私達の耳で聞き取ったのをカタカナに直すと「カァデイス」とするのが一番近いように思えます。

カデイスでもなく、カーデイスでもなく、勿論カデイスでもなく、カァデイス。そしてカァの部分にアクセントがあるのです。綴りでも **á** の上にアクセント記号がありますね、カデイス野郎はこのアクセント記号を無視してるわけ。なぜか多くのイギリス人がそうなんです。とにかく、以後、カァデイスと書くことにします。

それはともかく、このワケの分からんイギリス人へ電話したことで、考えを根本的に変えました。純スペイン人の町カァデイスに乗り込むんだから、是非スペイン人の引っ越し業者に頼もう、カデイスなんて言うヤツはダメ。

ここはスペイン、少々不便してもスペイン語で通してやろう。そう考えたことから前記の悪戦苦闘が始まりました。

イエロー・ページ (パヒナ・アマリーヤ página amarilla) で片っ端から訪ねまくり聞きまくった結果、どれもこれも私達のような小さな引っ越しはダメなようです。私達のように家具・什器付きのアパルタメントに住むのは圧倒的に外国人が多く、スペインの人は持ち家か、そうでなくても家具は自前という事が多いのでしょう。

だから、スペイン人の客を扱う事の多いスペイン人の業者は、私達のようなごく小さい引っ越しは得意ではないらしいんです。勿論、大きなトラックの料金を払えば喜んでやってくれますが、それではこちらがたまりません。

やっぱりあのカデイス・ジェレス野郎に頼まなくちゃならんのか。それはちょっと癪に障ります。マアまだ先のことだから気長に探そう。

解決は意外な所どころがっていました。ある日、買い物の途中で路上に駐車している引っ越し屋の大型トラックを見つけました。運転席は空。車のそばでドライバーが帰って来るのを待っていました。

やがて戻ってきた人の良さそうなドライバーに、引っ越ししたいんだけどオタクにゃ小さい車あるかなー？と聞くと、エエ勿論。そして名刺をくれて、見積もり担当者に電話するように教えてくれました。これが大当たり、料金は割安だし、従業員の対応もみんな感じがいいし、ジェレス野郎なんか頼まないでよかった、ヨカッタ。そして、10月19日に引っ越しと決まりました。Rは前日に現地入りして受け入れ待機。Nは荷物を業者に渡してからバスで追いかけるという事になりました。ハテ、一人で来れるかな？



これが私達の全財産。どうです？ これぞシンプル・ライフでしょう？ このスペース、縦横2メートル足らず、荷物の高さは平均1メートル、即ち4立米足らず。これで2年間充分楽しめた、と言うより2年間でこれだけゴミがたまってしまったと言うべきか？ これらの大部分はゴミ同然、捨てて惜しいようなものはありません。ただ、引っ越し先へ行ってもどうせすぐ必要になるから捨てないだけで、今の私達に

とって捨てるに忍びないものは殆どないのです。本当にかげがえのないものは形ある物ではナイ、ナンテ言ったらカッコよすぎでしょうか。

まあ、とにかくこの荷物の少なさが引っ越し費用の安さにつながった事は間違いありません。免許を捨ててしまったのはかえすがえすも惜しかった。免許証があればレンタ・カーの料金だけで済んだのに・・・。

「江ノ島タコせんべい」の段ボール箱は藤沢にいたとき、近くのスーパーで貰った空き箱。藤沢Aから藤沢Bへ、そして藤沢Bからベナルマデナへ、更にベナルマデナからカァディスへと三度目の活躍です。ほかの物の陰になって見えませんが、奥のほうに更に10個、合計12個の同じ段ボール箱が私達と一緒に移動です。

「タコせん」さん、どうもありがとう。一度も現物食べたことなくゴメンナサイ。そして、引っ越しを数日後に控えたある日、コンセルへ事務所にファン・カルロスを訪ねました。チョット上等の、まだ私達も呑んだ事のないカルロス・プリメーラ・インペリアルというブランデーを持って。2年間お世話になったお礼です。私達があまり不安もなくこの地に定着できたのも、誠実な彼の人柄によるところが少なくありません。いい人にめぐりあえたと思います。

これまた2年間、毎週シーツを替えに来てくれた掃除オバサンのサリ、ベレン、マリーアの3人にはチョコと心ばかりの金一封。ほんとにみんな暖かい人達でした。そして、言葉は交わさなかったけれど毎朝毎晩見ていた、クマネ、ヒゲオヤジ、シーズーおばさん、左の八百屋のグレコ、右の八百屋の豊満スペイン美人と小粋な舎弟。さようなら。皆さんありがとう。サヨウナラ、ベナルマデナ。***



このHPへのご意見ご希望やご感想・そのほか何でも、RかN宛にメールをいただくと、とても嬉しいです。お互いの会話以外殆ど日本語に接する機会のない二人です、楽しみにお待ちしております。

通常郵便は下記へどうぞ。今度は不着・行方不明などにはならない筈です。

郵便宛先： 名前をご存知の筈ですね。Sr. Sra. でも Mr. Mrs. でもOKです。

Paseo Marítimo N°8

Edif. Atlantico 2, 10°D

11010 Cádiz, Spain

連名の場合 (R) y (N) ではなく (R) & (N) でもOKです。スペインでも社名などで & を使っているケースはあります。けれども、個人レベルではやはり & はあまり使わないでしょう。Mr. Mrs. も同様です。でも、大丈夫、これが何を意味するか知らない人はいないでしょうから。

このアドレスで一番大事なのは通りの名前の後の番地 N°8 (Numero 8、ヌメロ8) と建物の名前の後の部屋番号 10°D です。この通りの8番地はこの建物しかありませんから、建物の名前がなくても大丈夫らしいですが、建物の名前があっても番地がないと危ないらしいです。ですから Paseo Maritimo N°8, 10°D だけで良いんだと案内のモニカは言いましたが、建物の名前を入れないと何となく頼りないですね。

Cádiz の á に付いているアクセント記号はなくても大丈夫です。他の綴りでもあるべきアクセント記号をつけてないのを良く見かけます。忘れるのか、頓着しないのか
分かりきってるだろと言うのか？

スペイン語ではナンバー (ヌメロ) の省略 No の o を小さく N の右肩につけます。
また部屋番号 10°D はデシモD (decimo D, 十階のD) の省略で、これも最後の o を
10 の右肩に小さくつけます。

前のベナルマデナはプリメーロD (primero D) 1°D 又は 1-D でしたから、小さい o を使う書き方だと 10 D に間違われる可能性がありました。今度はどう書いても、まあ大丈夫でしょう、百階建てなんて住宅があるわけありませんからね。***

* * * * *